

## JRA-VAN 競馬ソフト作成体験教室

### Lesson-1：サービスキーを入力する仕組みを用意する

当コーナーでは、Microsoft Visual Basic 2010 Express Edition(以下 VB 2010 と省略)で「JRA-VAN Data Lab.」サービス対応の競馬ソフトを作成していく過程をステップアップ形式で解説していきます。

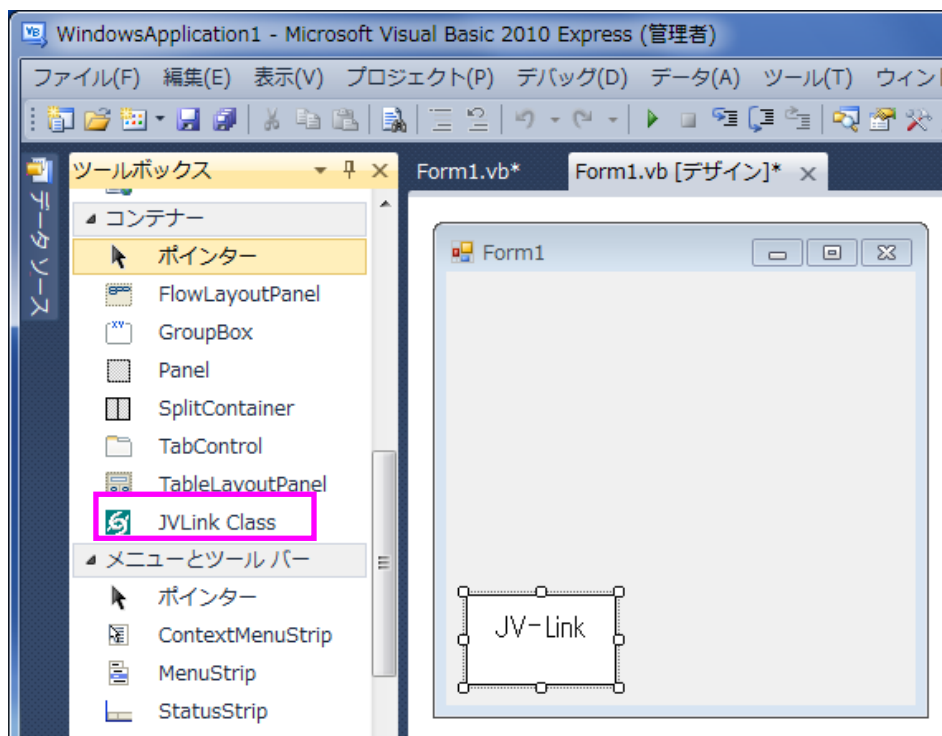
前回までの環境設定で JV-Link を利用するための準備を行ないませんでしたので、今回からはいよいよコーディングに入ります。今回は手始めに、作成する競馬ソフトのメニューから JV-Link の設定をするためのダイアログを呼び出せるようにコーディングしてみましょう。

#### 【 今回の目標 】

JV-Link の設定するためのダイアログを呼び出す仕組みを競馬ソフトに追加する。

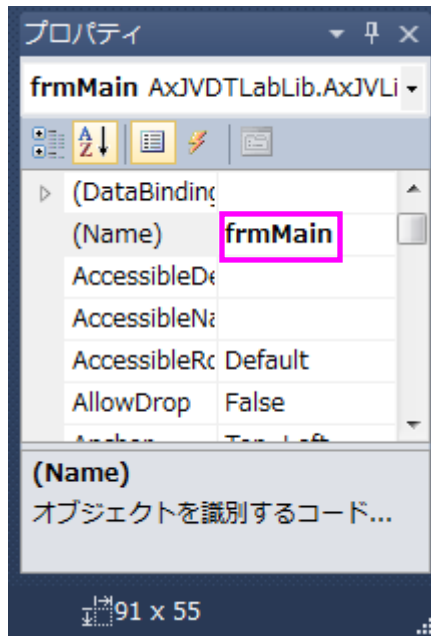
#### 【 やってみよう 】

- ① 環境設定を参考に、フォームに「JV-Link」を貼り付けます。

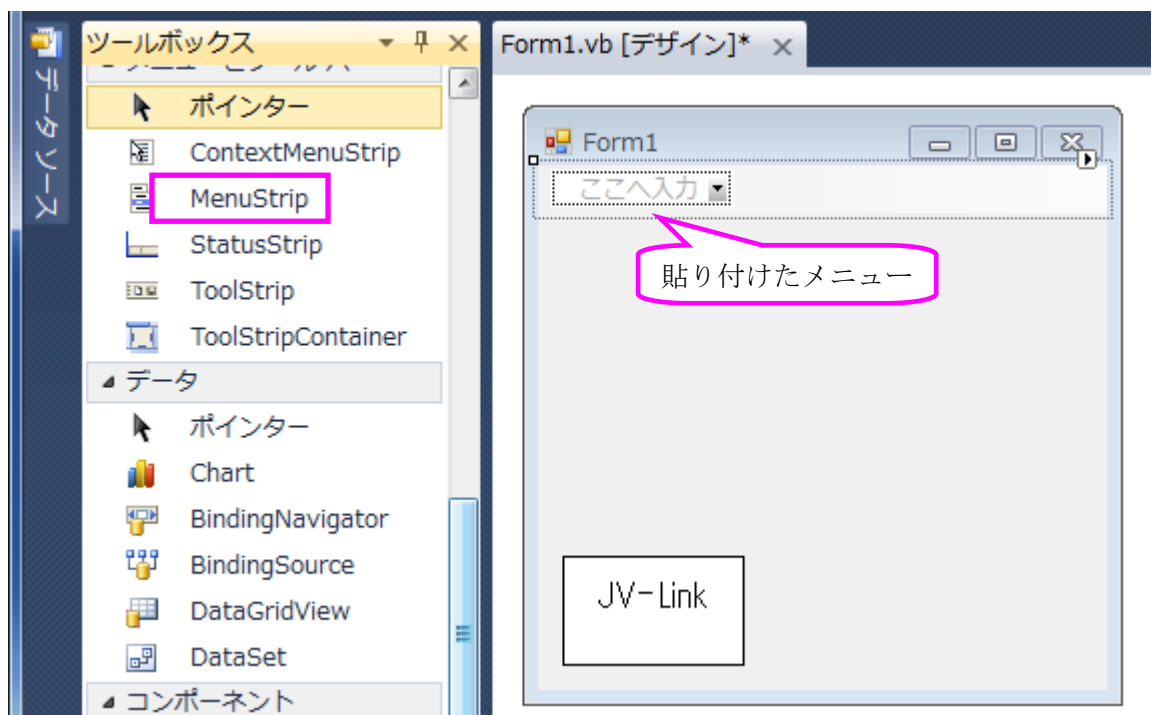


前回のレッスンの続きから開始するのであれば、この作業は必要ありません。

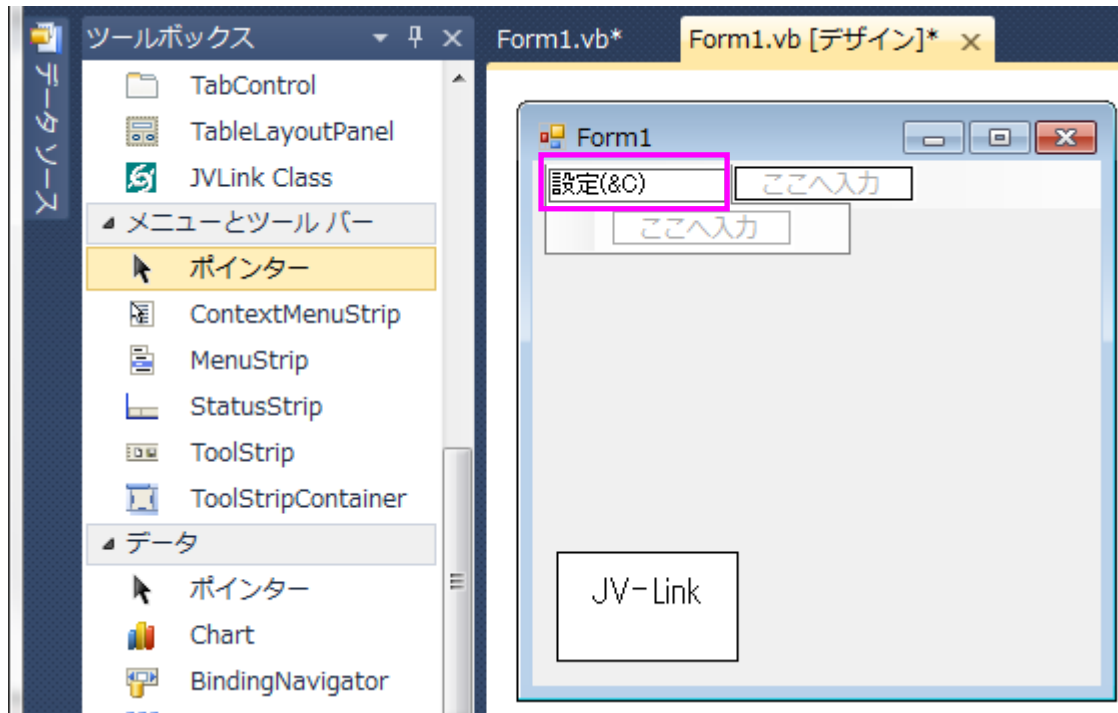
- ② フォームのオブジェクト名を「frmMain」に変更します。  
フォームのオブジェクト名を変更するには、フォームをクリックして選択した状態で、プロパティウインドウの「(Name)」を変更します。



- ③ ツールボックスのメニューとツールバーから MenuStrip を貼り付けます。



- ④ 貼り付けたメニューの「ここへ入力」をクリックしてテキストの入力モードにし、「設定(&C)」と記述します。

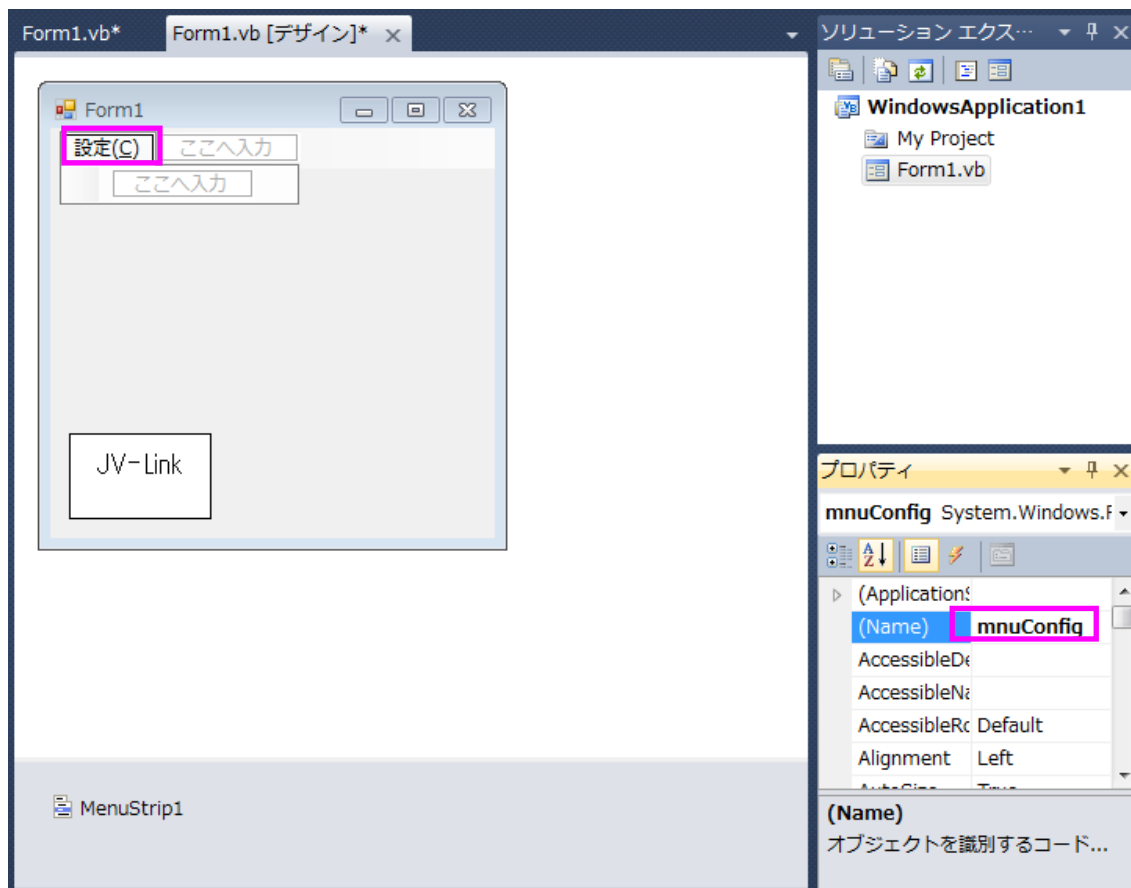


[ ワンポイントメモ ]

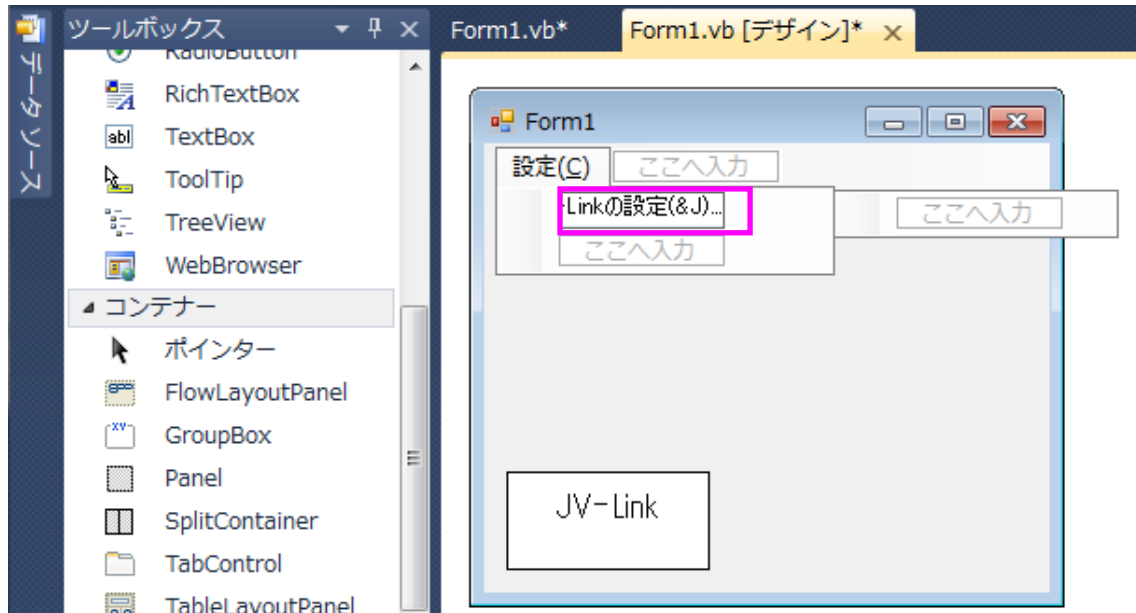
貼り付けたメニューが表示されなくなった場合は、フォームの下の「MenuStrip1」をクリックすると、メニューが表示されます。

テキストの欄に記述した「(&C)」は、アクセスキーです。上記例の場合、プログラム実行時に[Alt]キーを押した後に[C]キーを押すとこのメニューが選ばれます。

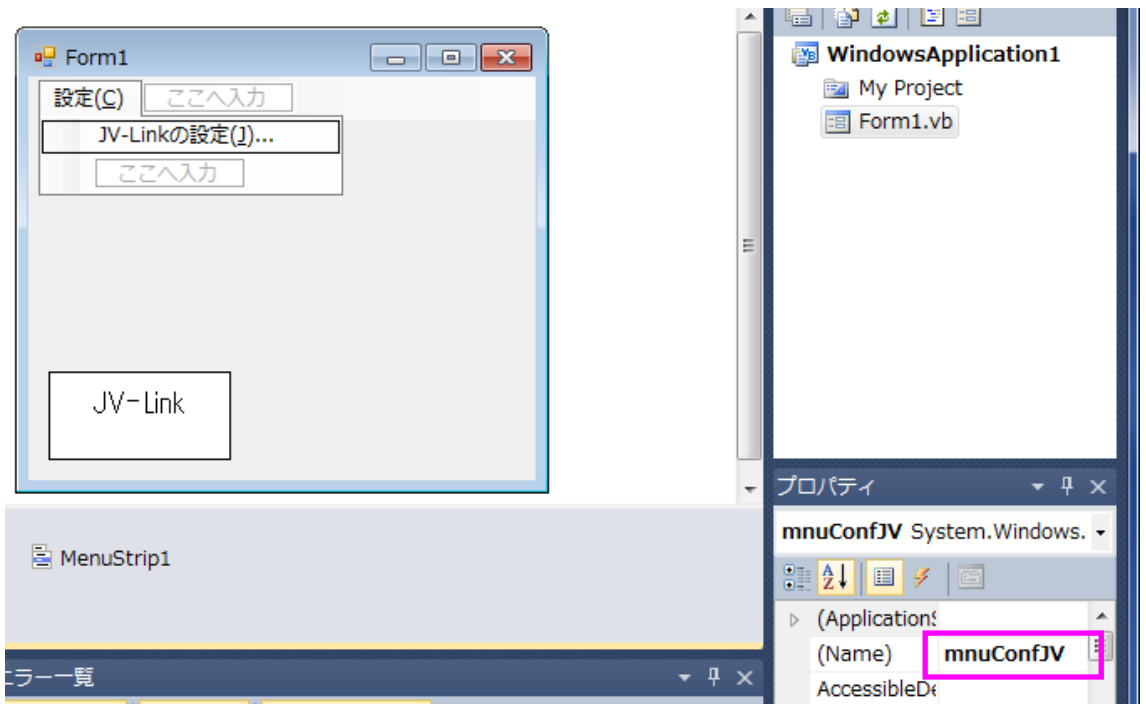
- ⑤ メニューのオブジェクト名を「mnuConfig」に変更します。  
オブジェクト名を変更するには、メニュー「設定(C)」をクリックして選択した状態で、プロパティウインドウの「(Name)」を変更します。



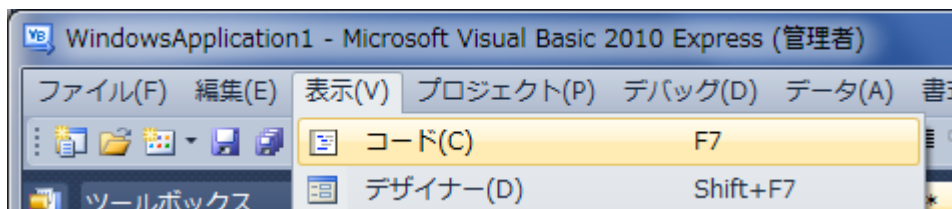
- ⑥ フォームの「設定(C)」メニューの下の「ここへ入力」をクリックしてテキストの入力モードにし「JV-Link の設定(&J)...」と記述します。



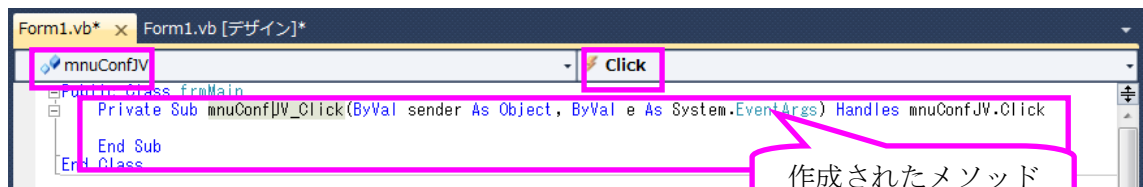
- ⑦ サブメニューのオブジェクト名を「mnuConfJV」に変更します。  
オブジェクト名を変更するには、サブメニュー「JV-Link の設定(J)...」をクリックして  
選択した状態で、プロパティウインドウの「(Name)」を変更します。



- ⑧ メニューから「表示」→「コード」を選択してコードエディタウインドウを表示します。



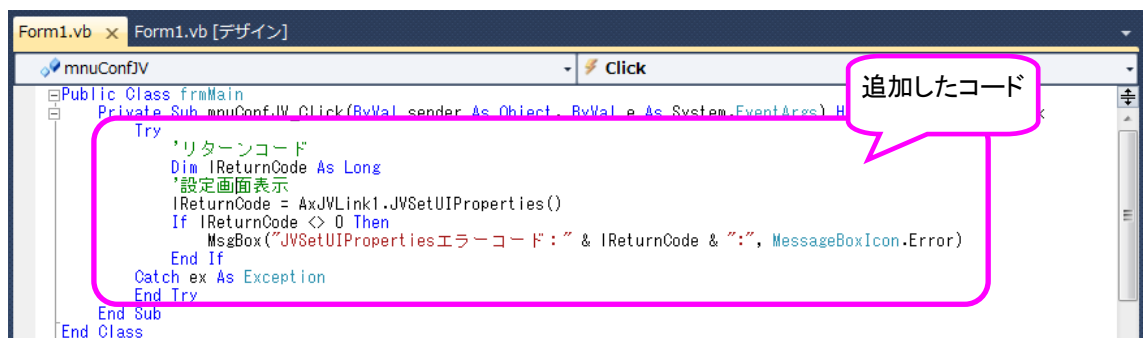
- ⑨ ウィンドウ上部の左のリストボックスから「mnuConfJV」を、右のリストボックスから「Click」を選択すると、コードエディタウィンドウに「JV-Link の設定」をクリックしたときに実行されるメソッド「mnuConfJV\_Click」が作成されます。



[ ワンポイントメモ ]

フォームに追加したメニューの「設定」をクリックし、表示された「JV-Link の設定」をダブルクリックしても、同じ結果になります。

- ⑩ このメソッドの中に、JV-Link の設定処理を記述します。(ソースコード 001-01 参照)。



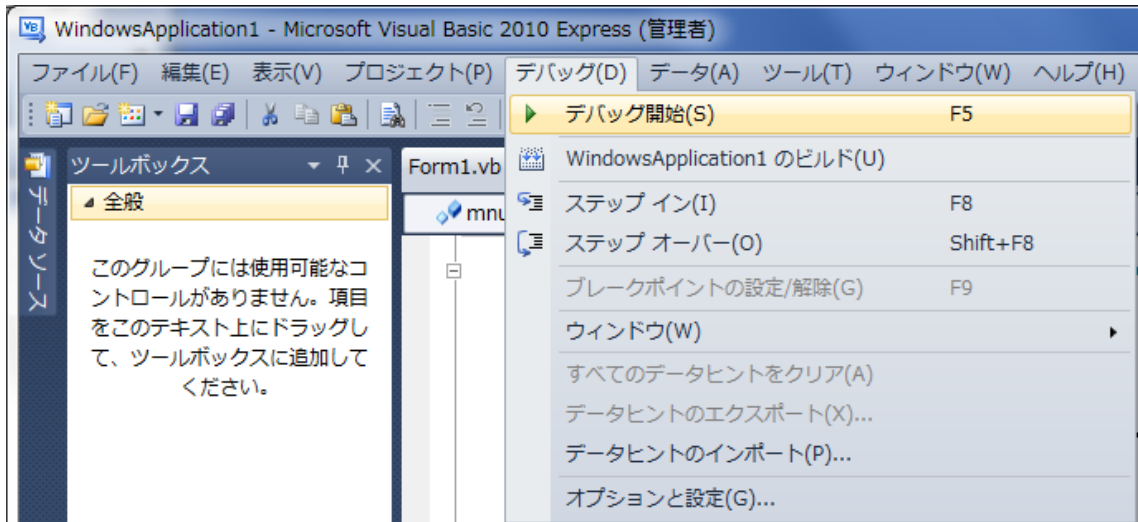
```
Try
    ' リターンコード
    Dim IReturnCode As Long
    ' 設定画面表示
    IReturnCode = AxJVLink1.JVSetUIProperties()
    If IReturnCode <> 0 Then
        MsgBox("JVSetUIPropertiesエラー コード:" & IReturnCode & ":", MessageBoxIcon.Error)
    End If
Catch ex As Exception
End Try
```

[ソースコード 001-01]

【 確認しよう 】

それでは、実際に動かしてみましよう。

- ① メニューから「デバッグ」→「デバッグ開始」を選択します。



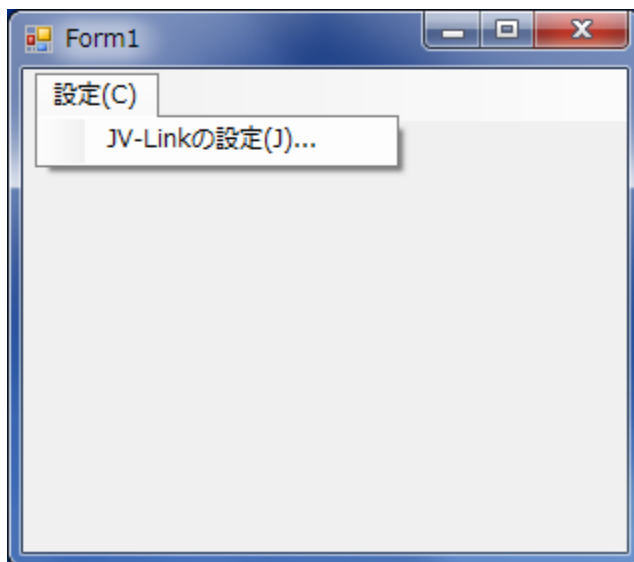
エラーがある場合は画面下のエラー一覧にメッセージが表示されます。メッセージをダブルクリックしてエラー発生箇所を表示し、正しく修正してから再度デバッグを開始します

A screenshot of the 'エラー一覧' (Error List) window. It shows two error messages. The first message is: '1 'If' の終わりには、対応する 'End If' を指定しなければなりません。' (1 'If' must have a corresponding 'End If' statement.) The second message is: '2 'End' ステートメントが有効ではありません。' (2 'End' statement is not valid.) Both errors are located in 'Form1.vb' at line 17, column 13 and line 19, column 13 respectively.

	説明	ファイル	行	列	プロジェクト
✖ 1	'If' の終わりには、対応する 'End If' を指定しなければなりません。	Form1.vb	17	13	WindowsApplication 1
✖ 2	'End' ステートメントが有効ではありません。	Form1.vb	19	13	WindowsApplication 1



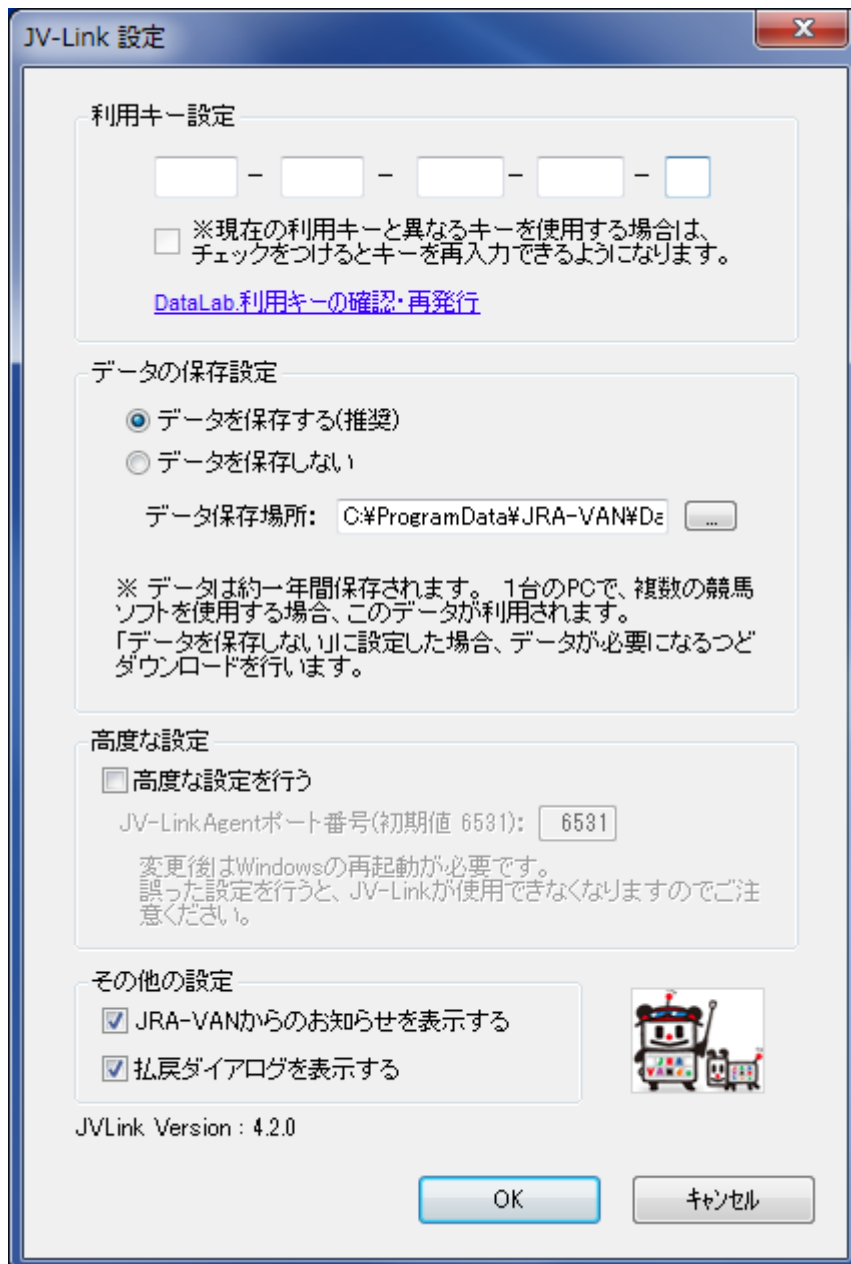
- ② 「設定」メニューのみのフォームが立ち上がるので、「設定」→「JV-Link の設定」を選択します。



[ワンポイントメモ]

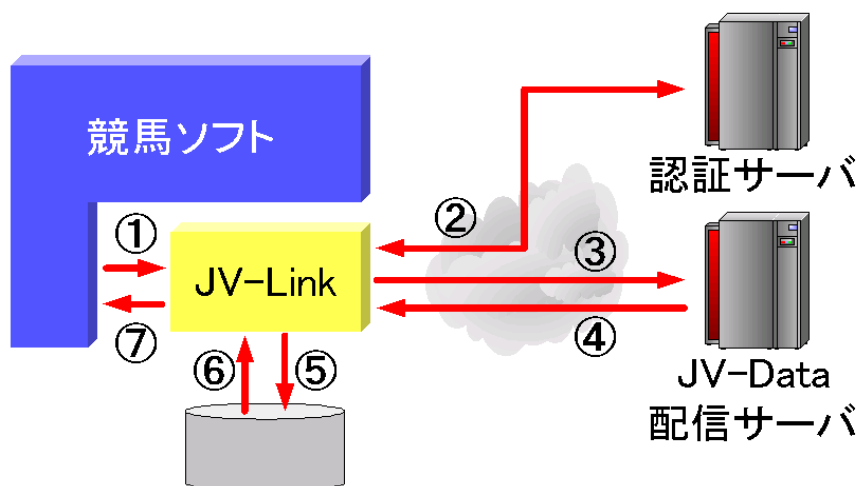
アクセスキーを設定してあるので、「Alt」＋「C」→「J」キーでも同じ動きをします。

- ③ 「JV-Link 設定」ダイアログが表示されます。



このダイアログでは、JV-Link を使用するための「サービスキー」および、JV-Data の保存に関する事項（保存するかどうかおよび保存先フォルダ）を設定することができます。

なお、「サービスキー」とは JRA-VAN Data Lab. サービスを利用する際に必要な英数字 17 桁の認証キーです（下図②の認証が必要）。このサービスキーを JV-Link に設定することにより、JV-Link を通して JV-Data を取得することが可能になります。



- ①競馬ソフトはJV-Linkにデータを要求する。
- ②JV-Linkは認証サーバに接続し、ユーザ認証を行なう。
- ③要求されたデータがローカル(PC上)になければ、JV-LinkはJV-Data配信サーバに該当データを要求する。（要求されたデータがローカルにあれば、⑥へ進む。）
- ④JV-Linkは該当データを圧縮ファイルの形で取得する。
- ⑤JV-Linkは取得した圧縮ファイルをローカルに保存する。
- ⑥JV-Linkは圧縮ファイルを解凍してデータを取り出す。
- ⑦JV-Linkは競馬ソフトにデータを返す。

- ④ 「JV-Link 設定」ダイアログの「サービスキー設定」の部分に、JRA-VAN より発行された「サービスキー」を入力します。また、「データの保存設定」の「データを保存する（推奨）」にチェックを入れ、「データの保存場所」を設定した後、「OK」ボタンをクリックします。これで JV-Link の設定は完了です。

#### [ ワンポイントメモ ]

すでに Data Lab. 対応のソフトを使用している場合は、設定済みのサービスキーが表示されます。また、一度使用したサービスキーは誤って書き換えられることが無いように編集不可になっています。